



柏ヶ谷、野村勇希・美紀さんの長女＝1歳



河原口、遠藤忠悦・陽子さんの長女＝1歳



大谷、小川貴司・千昭さんの長男＝1歳



さつき町、吉川裕詞・妙子さんの長男＝1歳



上今泉、和田裕二・友紀さんの長女＝1歳



河原口、本多圭一・純子さんの長男＝1歳



国分北、鹿島博文・孝子さんの長男＝1歳



国分北、森下陽子さんの長女＝1歳

きんきまる赤ちゃん

▶旬の味覚をもぎとった！
7月上旬に本郷・大谷・杉久保の畑で行われた、青空市出店者会主催のトウモロコシのもぎとり。訪れた親子連れなど約300人が収穫を楽しみました。



フォトピックス

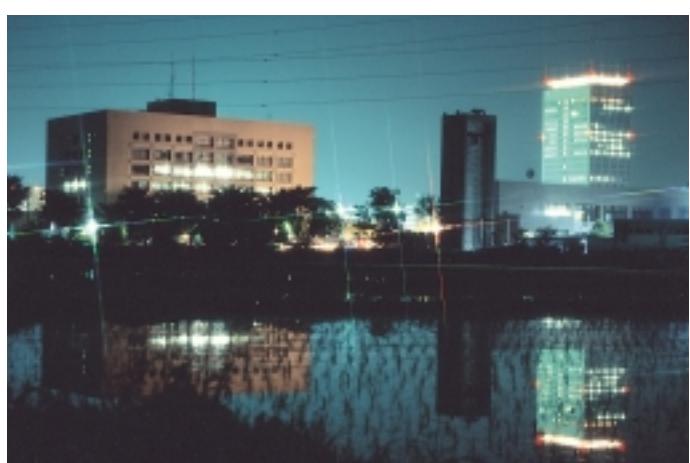
高齢者趣味の教室の童謡・ハーモニカ教室が、最終日の7月7日に文化会館でミニコンサートを開催。歌声と音色を披露しました（ハーモニカ教室から）。



練習成果お聴きください

みなさんからの作品

海老名の風景⑥

(▷場所 中新田から中央方面 ▷撮影日 6月20日)
大谷在住・佐山友子さん撮影

15の分団が技競う

7月16日、海老名市消防操法大会が市役所西側広場で行われ、市内15の各消防分団が参加。第10分団が最優秀賞に輝きました。



今月のプロフィル

東海道五十三次を一人で走破
旅の思いを三十一文字に始めた

佐々木義昭さん



「三条の橋のたもとのほほ笑み像、弥次さん喜多さん我を迎へし」

人情にふれて走った7日間
東海道五十三次。東京日本橋から京都三条大橋まで、約520キロの距離です。この道のりをわずか7日間で、それもたつた一人で走りきり、その間に166首の短歌を詠んだのが国分寺台在住の佐々木義昭さん（60歳）。佐々木さんはランニング歴30年のベテランで、これまで富士五湖一周マラソンをはじめ、海外のマラソン大会にも出場し、すべて完走した実績を持っています。ジャーニーラン（走り旅）に挑戦するきっかけは、競技とは違った形で自分を見つめる機会を持ちたかったため。実現までの準備は、走行経路・宿泊先・気温・降雨状況などの調査をはじめ、フルマラソンに最適化した身体をジャーニーランに合わせるために、半年間の調整期間を設けました。これには奥さんの理解と協力が不可欠だったといいます。また、走破したという結果もさることながら、特徴的なのはジャーニーランの経過を詠んだ短歌で、走行中にメモを取り、宿泊先でまとめました。

「光触媒」の発見は今から25年以上もさかのぼります。当初は光のエネルギーが化石燃料に取って代わるのではないかといわれたそうですが、

「光触媒」の発見は今から25年以上もさかのぼります。当初は光のエネルギーが化石燃料に取って代わるのではないかといわれたそうですが、エネルギー効率が低く断念。しかし現在も、方針を変えて、環境にやさしい技術として生き続けているんですね。（大）

編集機記

すが、エネルギー効率が低く断念。しかし現在も、方針を変えて、環境にやさしい技術として生き続けているんですね。（大）